

(参考:最近取り上げられることの多いテーマ。講義と関連づけて話してみました)

「責任ある漁業」と多面的機能 の発揮をめざした漁村振興

山尾政博

報告の目的

「責任ある漁業」の実現，多面的機能の発揮を
めざした漁村振興をどのように実現していけ
ばよいのか？

水産基本法：

多面的機能，漁村の総合的振興，
都市と漁村との交流，etc

報告の構成

- 1 「責任ある漁業」と地域漁業
- 2 漁業・漁村の多面的機能
- 3 地域資源・環境をいかした漁村振興
漁村参加型アプローチの見直し
漁協の役割とは何か？
漁村振興のジェンダー的視点
ツーリズムと漁村振興
- 4 まとめ

(この資料には3は含まれておりません。)



「責任ある漁業」と地域漁業

地域水産資源の持続的利用

「責任ある漁業」提起の背景

国連海洋法条約(1982年)

200海里体制への移行に伴い新しい漁業管理, 資源管理の枠組みが必要となる

世界環境開発会議(UNCED 1992)

FAOを中心に「行動綱領(Code of Conduct)」を準備

FAO会議(1995)

「責任ある漁業生産に向けての行動綱領」を採択
(Code of Conducts for Responsible Fisheries)

「責任ある漁業」とは何か？

- 漁獲の対象となる漁業資源の持続的利用をはかり、予防的な措置によって資源が乱獲に陥ることを防ぎ、生態系の保全を考慮した漁業
- 漁獲、加工、貿易、漁業操業、養殖、漁業調査、沿岸域管理も対象とする総合的な行動綱領(Code of Conducts)

資源管理型漁業の特徴

資源管理型漁業

資源の維持・増大をはかりながら、特定の資源または漁場から最大の経済的利益をあげる漁業

- 「漁村(漁協)内での資源利用に関わる公平性を確保し、漁家経営を維持することに重き」

漁業権漁業という条件のもとで強い資源所有意識で管理対応をはかっている

「責任ある漁業」が提起している資源利用にともなう「義務」を果たしているのか？

「責任ある漁業」への道

- 食料の安全保障，自国資源の有効利用，沿岸地域安定のために「責任ある漁業」を実現



利用者は資源保存の義務，資源の質・多様性・利用可能性を維持，過剰漁獲と過剰漁獲能力の削減，予防的手段，漁具・漁法の選択，統合的沿岸域管理，監視・取り締まり，零細漁業への配慮，etc.

- 日本の漁業・漁村社会が社会に対しておうべき責任を問い直す必要は？

「責任ある漁業」と地域漁業

- 地域漁業が担う食料供給，水産食品の提供をどのように維持していくか？
- 漁業・漁村が本来的にもっている食料供給，資源・環境保全，漁村社会・文化に基づく持続的な資源管理，といった広い視点から漁業の役割をとらえ直す

「責任ある漁業」と地域社会との 結びつき

- 沿岸域管理の新しい動き (地域社会との調和)

ICZM(Integrated Coastal Zone Management) ,
EBM(Ecosystem-based Management), etc



多様な管理, 統合的管理への移行
新しいタイプの管理システムが生まれつつある

- 総合的な漁村開発への提案: 貧困の解消, 漁村社会の持続的な成長, 雇用の確保, 生活水準の維持, 生存の保障, etc.

漁業・漁村の多面的機能

なぜ注目されるのか？

水産基本法の理念と「多面的機能」

基本理念:

- 1) 「食料の安全保障」 水産物の安定供給の確保
- 2) 水産業の健全な発展

意義:

- 1) 国民全体の安全で豊かな生活の実現のための政策
- 2) 水産政策の対象の拡大
水産関連産業, ツーリズム, 遊漁, 漁村振興, **多面的機能**
- 3) 経営政策の充実
効率的かつ安定的な漁業経営の育成
- 4) 水産資源の持続的利用の重視
環境, 生態系との調和
- 5) 消費者重視の視点

多面的機能とは何か？

ある経済活動が複数の生産物を産出し、それであるがゆえに一度に複数の社会的な要請に貢献するという事。

生産プロセスとその複数の生産物に関する特定の性質についての「活動に着目した」概念である。

OECDによる規定

多面的機能の本質

- その基盤となる生産との関係
- 経済指標だけでは計測できないことも
- 「特徴」ではなく「目的」に注目
それ自体が社会において特定の役割を果たすことが期待。存在自体が価値を有する
(漁業の有する多面的機能を増進することが政策目的)

水産業及び漁村の多面的機能とは？

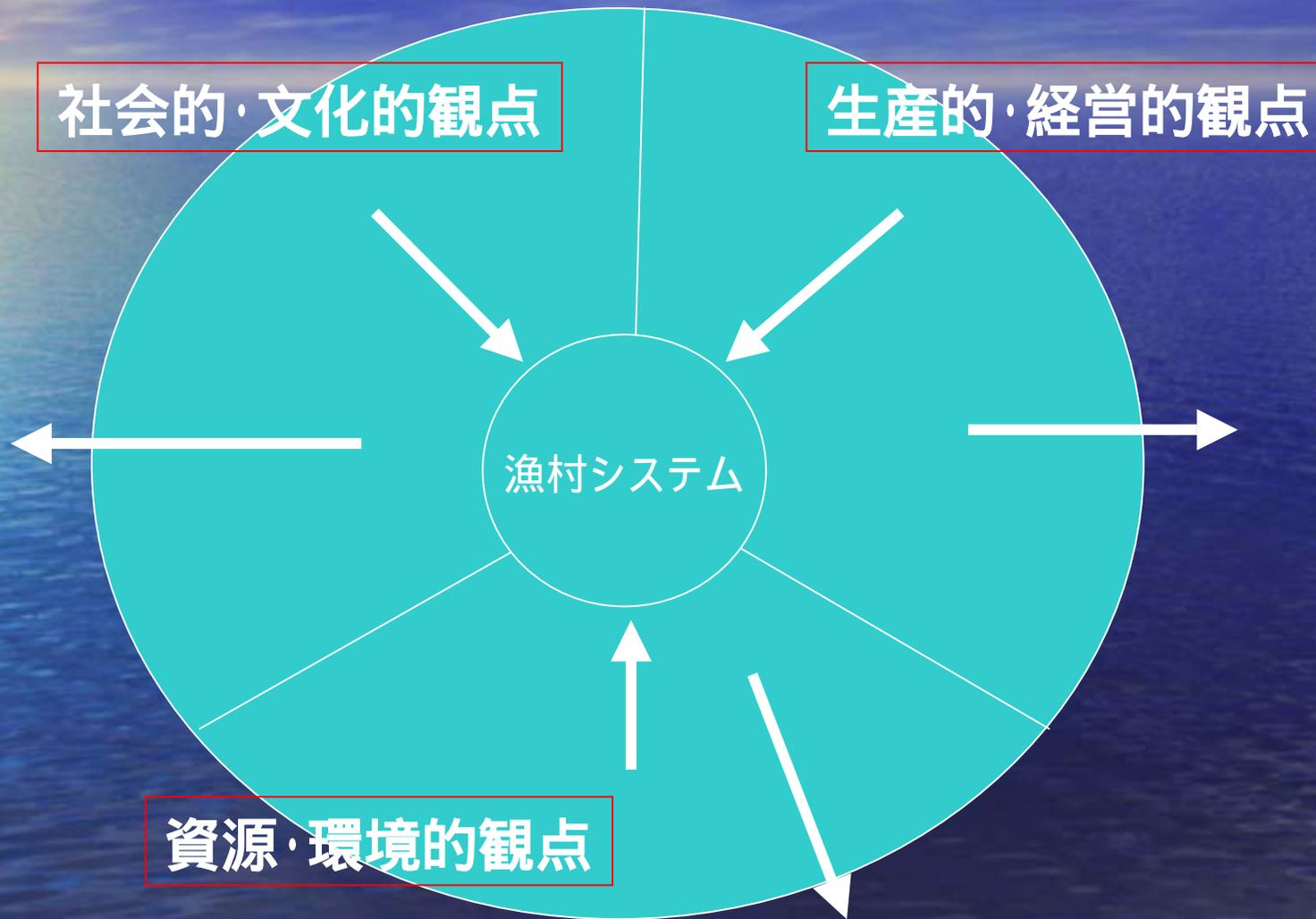
水産基本法

水産業及び漁村が、水産物の供給の機能以外に、国民生活や国民経済の安定にとって多面にわたる機能を有するものであり、こうした機能が適切かつ十分に発揮されるよう施策を充実させていくべきである。

- 1) 自然環境・生態系の保全
- 2) 国民の安全確保
- 3) 良好な景観の維持・形成
- 4) 国民の余暇活動の場の提供
- 5) 伝統・文化の継承
- 6) 地域経済・社会の維持
- 7) 食料の安全保障

漁業・漁村がもつ機能
社会的、経済的、環境的
視点で総合的にとらえる

(参) 多面的機能論からみたバランス



多面的機能：二つの系譜 1

I 国家政策レベル:

グローバル化下、漁業・漁村の行き詰まり、

日本水産業の空洞化

1) 漁村振興の意義付け

多面的機能に活路を見いだす

2) 貿易自由化の流れを阻止する根拠

文化、生活、生態系、環境との強い関係性をもつ漁業・漁村の強調

多面的機能：議論の行き先は？

- WTO：水産物の輸入規制，水産物貿易ルールの確立に向けた理論的根拠
- 日本の水産業・漁村に対する消費者の関心：購買意識の変化を誘発
- 「条件不利地漁業」支援への国民的合意の形成（cf. 農業の中山間地直接支払制度）

多面的機能:二つの系譜 2

II 地域住民, 漁村社会による内発的な試み

1) 地域資源・環境の有効利用によって地域漁業の停滞を食い止めようとする動き

新しいタイプの漁業ビジネス, ツーリズム, 都市との交流, etc.

2) 内発的な動きのなかに地域漁業, 資源管理, 地域振興の新しい担い手をみいだそうとする動き

多面的機能：内発的試みの行き先は？

- 漁村の再生：空洞化しつつある漁村を活性化
する社会的意義
- 「漁協コミュニティー」：漁協を基礎とした生活
文化を再生し、開発事業に挑戦する
- 変革の視点：生産的視点から消費的、文化
的、社会的視点へ（地域生活の安定を基本）

多面的機能の発展

政策レベルの深化
地域レベルの試み

漁村振興の新しい潮流？

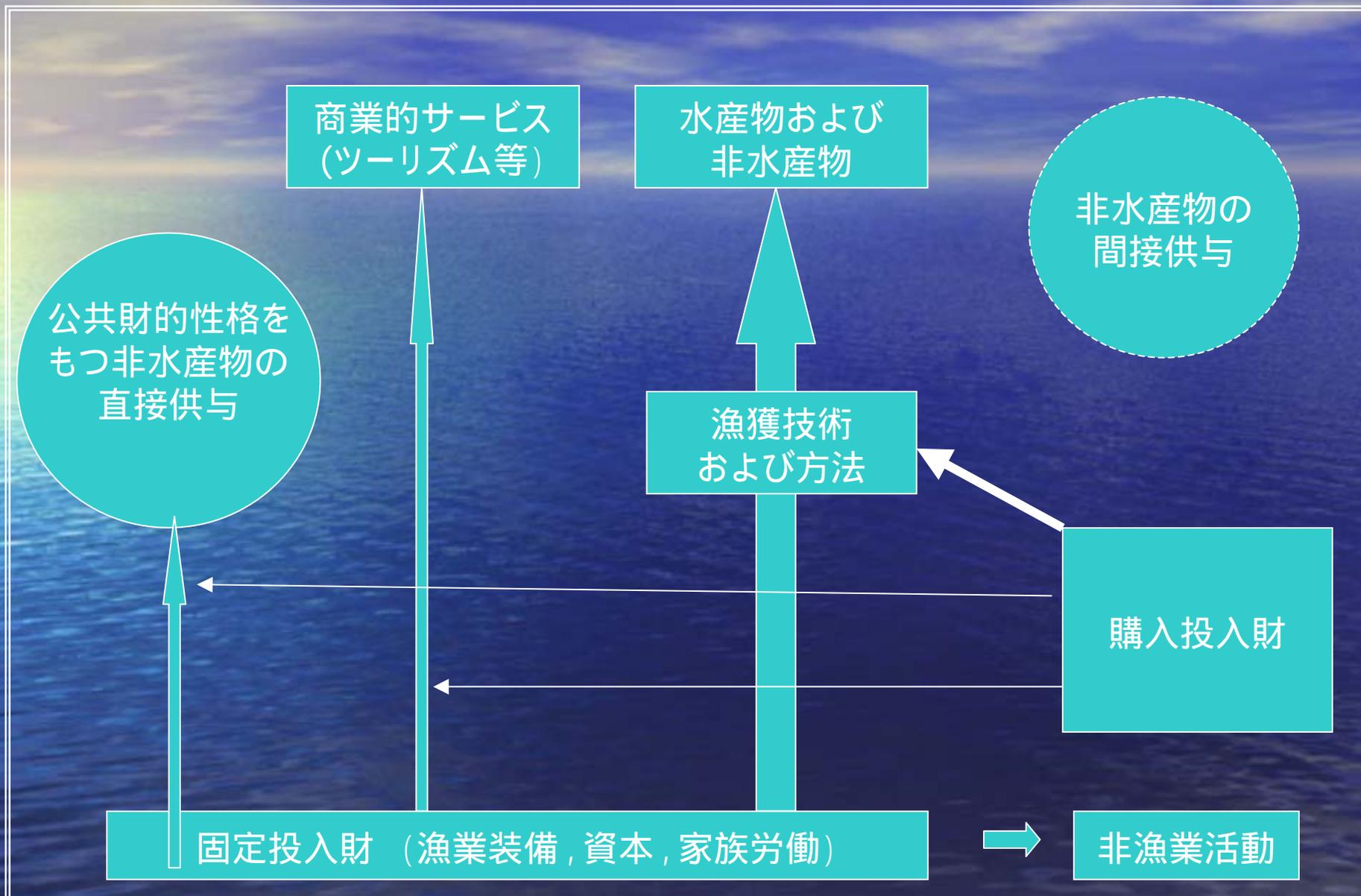


- 都市との交流に活路を見いだす活動
- 地域に雇用の場をつくる
- 地域アイデンティティーの価値を水産物に付加
- 漁家経済の安定

従来の漁村振興と大きな違いはあるのか？

「条件不利地漁業」に対する支援・振興

漁村における経済活動と多面的機能



注: OECD 資料をもとに作成



まとめ

漁村振興のための新しい枠組み作り

(写真: 副島久実さん提供)

漁村振興の課題

1 政策レベル

- 今後も水産物輸入は増え続ける(WTO,FTA対応)
「責任ある漁業」の立場から、自国の水産資源を有効かつ持続的に利用し、「食料の安全保障」をいかに実現するのか。
(構造改革の課題)
- 多面的機能の発揮が求められる条件不利地漁業については、漁村の社会的、経済的基盤を維持するために直接所得保障方式の導入(社会的ゾーニング)
- 地域振興に関わる諸事業が地域の実情に応じて運営できるシステム作り(地方分権の推進,補助金行政の転換,etc)

漁村振興の課題

2 地域レベル

- 利用可能な資源や環境を発見し、都市との交流に焦点をあてたビジネス化をはかる
- 受け皿、担い手を狭く限定しない。さまざまな個人、グループが参加できるネットワークを作り、情報交換、技術交流に努める
- 市町村および漁協の広域合併が進むなかで、ネットワーカーの存在が重要になる
「誰がネットワーカーになれるのか？」

漁村振興の課題

2 地域レベル

- 利用可能な資源や環境を発見し、都市との交流に焦点をあてたビジネス化をはかる
- 受け皿、担い手を狭く限定しない。さまざまな個人、グループが参加できるネットワークを作り、情報交換、技術交流に努める
- 市町村および漁協の広域合併が進むなかで、ネットワーカーの存在が重要になる(第3セクター方式は再検討)
「誰がネットワーカーになれるのか？」

水産業・漁村の多面的機能の評価分野とその内容

評価分野	内 容
所得と雇用の機会の場の提供	漁村の多くが半島域や離島にあり、その地理的条件から、水産業以外に代替産業が無く、その地域にとって重要な、雇用の機会と所得の場を提供
環境の保全	生活排水等が様々な経路を経て、最終的には海に流入。海に流れ込んだ栄養分は生態系を通じて有用な水産物に形を変え、漁業活動を通じて陸上に回収されており、水産業は海から陸への物質循環の役割
生命財産の保全	日本沿岸域では約23万隻の漁船が操業、約3,000の漁港、約6,200の漁業集落が存在。これによって、沿海域における周辺監視の巨大なネットワークが形成され、海難や災害時の発見、救助活動や国境監視、緊急避難、防災などの機能
保養・交流・学習の場の提供	沿岸域は、海水浴、潮干狩り、釣り等の多岐にわたるレクリエーションを通じた国民の安らぎの場。また、体験漁業や環境学習など、都市と漁村の交流活動の場を提供
文化の継承	水産業・漁村は、その営みを通じて様々な食や祭り等の生活文化、漁労文化、独自の漁村景観を形成。これらは、漁村やそこに生活する漁業者によって維持、継承

資料：水産庁

多面的機能の評価軸はまだ定まっていない。